

1 教育目標

(1) 令和3年度名古屋市学校教育の努力目標

名古屋市は、名古屋の子どもが、新型コロナウイルス感染症が拡大する状況においても、なかまとともに学びながら、自分自身の夢を見付け、その実現に向けて歩むことができるよう、名古屋市学校教育の努力目標及び重点事項を次のように設定した。

【令和3年度 名古屋市学校教育 努力目標】

なかまと学び 夢を創る

【令和3年度 名古屋市学校教育 努力目標達成のための重点事項】

- すべての子どもに対し、一人一人に応じた個別最適化された学びを提供し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を推進する。
- 子どもがキャリア教育を含む多様な学びを通して自分のよさに気づき、夢を抱き、その実現に向かって自他を大切にしながらたくましく生きることができるようにする。

(2) 本校教育目標

令和3年度名古屋市学校教育の努力目標及び重点事項を踏まえ、本校では、時代の流れや社会の変化に適切にかつ柔軟に対応できる、心身ともに健全な知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。具体的には、次の三つの柱を中心に据えた生徒の育成を目指す。

- 進んで学ぶ態度と創造力を身に付けることができる生徒の育成（自主創造）
- 望ましい人間関係を築くことができる生徒の育成（和と協力）
- たくましい心と体をつくることのできる生徒の育成（心と体）

2 本年度の学校教育努力点とその推進

令和3年度の名古屋市学校教育の努力目標及び重点事項、そして、本校教育目標に基づき、本校生徒の実態や地域の特色を踏まえて、本年度の学校教育努力点を次のように設定する。

【令和3年度 名古屋市立昭和橋中学校 努力目標】

主体的・対話的で深い学びを目指して

—自と他との関わり合いを大切にした教育活動を通して—

(1) 学校教育努力点の設定理由

本校では、令和元年度まで、「主体的・対話的で深い学びを目指して—『学び合い学習』を通して—」という学校教育努力点の基、全教員による教科研究授業実践を設定したり、定期的な道徳の研究授業を設定したり、また、特別活動によって協力することの大切さを感じさせ互いの人間性や自主性を高め合わせたりする場を設定したりしてきた。こうすることで、「学び合い学習」を通して、なかまとの対話を大切にした主体的・対話的な取組への理解を深めてきた。これらの取組は、「学び合い学習」を行う場面をより明確にしたり、「主体的・対話的で深い学び」への研鑽をより深めたりすることに効果的であったが、その一方で、自分の考えを精緻なものにして他者に伝えたり、他者の考えを聞いた上で自分の考えを踏まえながら他者の考えに対して問い返しをしたり、また、互いの考えを競合させたりする生徒の姿を表出させることについてはまだ課題が残っている。さらに、保護者評価や学校関係者評価においては、生徒・教師・保護者・地域がより強い信頼性で結ばれるとともに、より開かれた学校作りを求める声も聞かれた。昨年度、公開授業を通じた「教科指導」や、学校参観開放日を通じた「学校を取り巻く人・組織・事柄の自と他との関わり合い」に重点を置いた教育活動を推進してきたことで、本校が目指すところの「主体的で対話的な深い学

び」に向けて、各々の立場の人々が各々の場面で、自と他との関わり合いを大切する活動を進めることができた。そして、学校関係者からも、学校参観開放日の取組については高評価を得ることができ「この取組をぜひ続けてほしい。」という意見を得ることができた。そこで、本校では、本年度、「教科指導」については、特別研究授業や学校参観開放日の場を通しての公開授業参観を継続していく。また、「学校を取り巻く人・組織・事柄の自と他との関わり合い」については、学校参観開放日の定期的な実施の継続に加え、参観対象者を広げたり、参観者向けアンケートに取り組んだりしていく。こうすることで、本校での取組を保護者や地域の方々から多面的・多角的に見てもらいながら、本校の取組や魅力をより広い地域へと発信していくとともに、学校教育活動に関わるあらゆる人や組織、事柄が互いに円滑に、かつ、向上し合いながら、より強いつながりで結ばれる温かみのある学校教育活動を推進していけることを引き続き目指していく。

(2) 学校教育努力点を推進するための各指導の場面とその具体的な手立て

① 教科指導

教科指導では、6月に特別研究授業、10月と1月には学校参観開放日を設定し、それらの場を通して、言語活動やICT活用を踏まえた1人1実践以上の公開授業を行う。公開授業では、事前に努力点推進委員会や各教科部会で実践授業の内容について協議をし、それを「授業デザイン」として作成し、公開授業当日に配付する。特別研究授業では、代表教員による特別研究授業を行い、その授業を他の全教員で参観し、終了後に参観した授業内容について協議する。その後、外部講師等による講演会を設定することで「主体的で対話的な深い学び」に向けた研修会を行う。

② 特別の教科道徳

特別の教科道徳の指導では、5月と11月を中心に、定期的な研究授業を設定する。5月には、「情報の取り扱い方」を題材として、道徳研究授業を行う。具体的には、外部講師による「情報モラル・携帯電話の使い方に関する講演会」を設定し、それを踏まえた道徳の授業を各学級で展開する。また、11月には、「命の大切さ」を題材に、「なごやINGキャンペーン」に関連付けた道徳研究授業を行う。具体的には、校長による「いじめ撲滅・命の大切さに関する講演会」を設定し、それを踏まえた道徳の授業を各学級で展開する。

③ 特別活動及び総合的な学習の時間

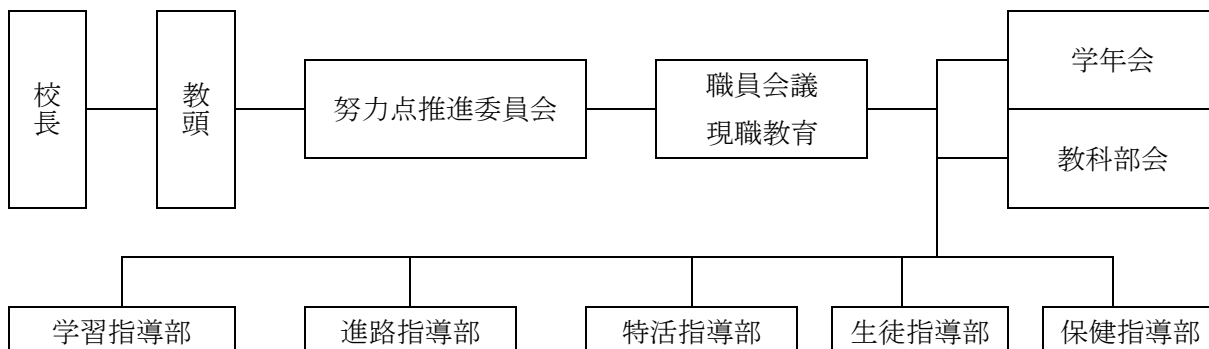
特別活動及び総合的な学習の時間では、生命・環境・国際理解・福祉・進路等の様々な分野において、自ら考えさせる学習や体験的な活動の中で、身のまわりの人と協力することの大切さを感じさせたり互いの人間性や自主性を高め合わせたりさせながら、主体的・対話的に問題解決に取り組ませ、自己の生き方について考えさせていく。

④ 学校を取り巻く人・組織・事柄の自と他との関わり合い

生徒・教師・保護者・地域など、学校を取り巻くあらゆる人・組織・事柄が、各々の立場や様々な場面において、主体的・対話的で深い学びに向かっていけるよう、関わり合いを大切にした教育活動を展開する。その際、あらゆる人・組織があらゆる事柄を自分のこととして捉え、積極的にその事柄へ関わっていく態度で臨んでいける雰囲気をつくっていきながら、コミュニケーションに重点を置いた教育活動の推進が望まれる。そのために、本校では、そのような場や機会の確保に努めていく。日々の授業においては、生徒が学習課題について、自分・他者・(学習課題の)対象との対話を基盤とすることができる授業の展開を図り、知識や技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力を育てていく。また、教育相談や三者懇談会、日々の生活指導等において

は、「生徒と生徒」「生徒と教師」「生徒と保護者」「教師と保護者」が、それぞれ対話を基盤とした温かみのある中で、コミュニケーションの充実を図っていきけるような指導を展開していく。さらには、定期的な学校参観開放日を新たに設定し、日々の子どもの様子をはじめとした、子どもや教師の授業への取組や学校全体の様子を保護者や学校評議員、地域の方々に参観してもらう機会を確保していく。こうすることで、学校を取り巻くあらゆる人・組織・事柄が、主体的・対話的で深い学びに向かっていける、自と他とが関わり合いを大切にした教育活動を推進していく。

(3) 学校教育努力点推進のための組織図



(4) 学校教育努力点推進の年間計画

月	実践の内容
4	学校教育努力点の決定、教育課程の検討、指導方法の検討、学校参観開放日
5	特別研究授業デザインの検討、道徳の研究授業①に向けた研修、道徳の研究授業①
6	特別研究授業、外部指導講師等による講演会等での研修
7	
8	授業デザインの検討①
9	
10	学校参観開放日（個別の研究授業及び授業デザイン配付①を兼ねる）
11	道徳の研究授業②に向けた研修、道徳の研究授業②
12	授業デザインの検討②
1	学校参観開放日（個別の研究授業及び授業デザイン配付②を兼ねる）
2	
3	本年度の学校教育努力点の振り返り、次年度に向けた取組の検討

3 授業時間数年間配当表

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	英語	道徳	総合的な学習	特別活動	合計
1年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	50	35	1015
2年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	70	35	1015
3年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	70	35	1015

○ 特別支援学級の指導形態

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	英語	道徳	特別活動	総合的な学習	作業学習	生活単元学習	合計
G組	105	35	105	70	35	70	70	70	35	35	35	70	140	140	1015
H組	105	35	105	70	35	70	70	70	35	35	35	70	140	140	1015

